

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 2019年11月13日

【四半期会計期間】 第41期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 勤

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 田之畑 武

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 田之畑 武

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第2四半期 連結累計期間	第41期 第2四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	6,007,361	6,311,031	12,232,082
経常利益 (千円)	349,432	119,696	431,576
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失( ) (千円)	207,743	113	262,069
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	215,962	13,740	233,239
純資産額 (千円)	6,099,499	5,401,682	5,422,836
総資産額 (千円)	12,654,975	13,548,528	13,011,462
1株当たり四半期(当期)純利益又は 1株当たり四半期純損失( ) (円)	44.47	0.03	57.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.1	39.9	41.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	441,819	379,566	6,485
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	282,647	305,189	372,583
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	389,214	355,703	719,237
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,305,121	1,615,149	1,959,082

回次	第40期 第2四半期 連結会計期間	第41期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	31.45	11.97

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の向上や所得・雇用環境などの改善が景気の緩やかな回復基調を下支えしているとみられるものの、グローバル経済の減速や貿易摩擦の深刻化に伴い輸出や生産に弱い動きとなっているほか、労働力不足等に伴う人件費や物流費の上昇など不安定な状況が続いており先行き不透明な状況で推移しました。このような状況が長引くなかで、消費税率引き上げに伴う家計負担も徐々に重くなると思われ、消費者の買い控えや業態を超えた価格競争が続く厳しい経営環境が続くものと予想されます。

このような環境の下、当社グループは、「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」への取り組みを積極的に推し進めるなか、商品の信頼性向上やグローバル社会で通用する食品安全規格「ISO22000」の認証取得において、食品事業は本年5月に取得し、水産事業は来年5月に取得する予定で進めております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高63億11百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益55百万円（前年同期比80.7%減）、経常利益1億19百万円（前年同期比65.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失0百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2億7百万円）の増収減益となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

#### 水産事業

水産事業は、養魚用配合飼料販売において、養殖環境は特に熊本県八代海域で本年8月後半に発生した赤潮による被害が大きく、餌止めによる影響、競合他社との価格競争及び受託生産販売が低調などから厳しい事業環境で推移しました。

このような状況のなか、エビ飼料類は、エビ養殖環境が例年と比べ水温が高く細菌感染症等の被害の影響を受けるなどし、前年同期を下回りました。ハマチ飼料類、ヒラメ飼料類及びマダイ飼料類は、一部地域で赤潮発生による影響を受けたものの、新規販売先の獲得や既存販売先シェア拡大で、前年同期を大きく上回りました。子会社は前年同期並みに推移しましたが、利益面におきましては、子会社における生産不調や在庫の評価減等もあり、前年同期を下回る厳しい利益水準となりました。

その結果、売上高は38億79百万円（前年同期比5.9%増）、セグメント利益は1億84百万円（前年同期比48.7%減）となりました。

## 食品事業

食品事業は、引き続き価格競争がある一方、物流費等のコスト上昇から本年9月から値上げを実施しましたが、値上げ浸透までは苦戦が予想される厳しい事業環境で推移しました。このような状況のなか、即席めん類及びそうめん類は、前年同期並みに推移しました。皿うどん類、棒状ラーメン類及びカップ類は、プライベート商品を含め順調に推移し前年同期を上回りました。子会社におきましては、前年同期を維持するに留まっております。利益面におきましては、材料費や物流コスト等の上昇で厳しい環境で推移しました。

その結果、売上高は24億31百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は1億31百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ5億37百万円増加し135億48百万円となりました。これは、主として現金及び預金が3億28百万円減少、受取手形及び売掛金が5億35百万円増加、仕掛品が1億51百万円増加、原材料及び貯蔵品が1億48百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ5億58百万円増加し81億46百万円となりました。これは、主として買掛金が2億3百万円増加、短期借入金が7億6百万円増加、長期借入金が3億12百万円減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ21百万円減少し54億1百万円となりました。これは、主として利益剰余金が35百万円減少、その他有価証券評価差額金が13百万円増加したことによるものです。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前年同期と比べ3億10百万円増加し16億15百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によって支出した資金は、前年同期と比べ62百万円減少し3億79百万円となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益1億19百万円、仕入債務の増加額2億3百万円などの資金の増加要因があった一方で、たな卸資産の増加額3億35百万円、売上債権の増加額5億35百万円、法人税等の支払額42百万円などの資金の減少要因があったことなどによるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によって支出した資金は、前年同期と比べ22百万円増加し3億5百万円となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出2億95百万円によるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によって得られた資金は、前年同期と比べ33百万円減少し3億55百万円となりました。

主な要因は、長期借入金の返済による支出5億49百万円、配当金の支払額34百万円などの資金の減少要因があった一方で、短期借入金の増加額8億25百万円、長期借入による収入1億20百万円の資金の増加要因があったことなどによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

前事業年度の有価証券報告書に記載のとおり、引き続き「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」に取り組んでまいります。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は1億9百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		4,746		603,900		393,400

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東 勤	鹿児島県日置市	575	14.83
東 実	横浜市鶴見区	571	14.72
有限会社ヒガシマル開発	鹿児島県日置市伊集院町徳重28番地	427	11.01
ヒガシマル共栄会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	358	9.25
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	165	4.25
東 吉太郎	鹿児島県日置市	140	3.61
東 久江	鹿児島県日置市	140	3.61
鹿児島リース株式会社	鹿児島県鹿児島市山之口町1番10号	120	3.09
ヒガシマル従業員持株会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	85	2.21
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	57	1.47
計		2,639	68.07

(注) 上記のほか当社保有の自己株式868千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 868,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,877,000	38,770	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		38,770	

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	868,800		868,800	18.30
計		868,800		868,800	18.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,291,532	1,963,217
受取手形及び売掛金	1,827,893	2,363,746
商品及び製品	587,637	622,370
仕掛品	582,327	734,091
原材料及び貯蔵品	1,179,808	1,328,474
その他	133,535	88,654
貸倒引当金	11,589	13,332
流動資産合計	6,591,145	7,087,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,578,547	1,580,785
機械装置及び運搬具(純額)	826,695	827,161
土地	2,127,540	2,127,540
その他(純額)	245,705	333,097
有形固定資産合計	4,778,488	4,868,584
無形固定資産		
のれん	311,169	277,583
その他	38,558	47,374
無形固定資産合計	349,727	324,958
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,332,606	1,308,268
貸倒引当金	40,505	40,505
投資その他の資産合計	1,292,101	1,267,762
固定資産合計	6,420,316	6,461,305
資産合計	13,011,462	13,548,528

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	768,948	972,262
短期借入金	2,841,142	3,548,036
未払法人税等	66,434	87,520
賞与引当金	160,394	169,278
その他	427,795	469,276
流動負債合計	4,264,715	5,246,373
固定負債		
長期借入金	2,454,803	2,142,563
役員退職慰労引当金	497,734	380,433
退職給付に係る負債	91,314	96,290
その他	280,058	281,186
固定負債合計	3,323,910	2,900,472
負債合計	7,588,625	8,146,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	5,207,107	5,172,099
自己株式	950,908	950,908
株主資本合計	5,318,498	5,283,491
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,338	118,191
その他の包括利益累計額合計	104,338	118,191
非支配株主持分	-	-
純資産合計	5,422,836	5,401,682
負債純資産合計	13,011,462	13,548,528

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	6,007,361	6,311,031
売上原価	4,560,153	5,073,201
売上総利益	1,447,207	1,237,830
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	243,993	271,286
貸倒引当金繰入額	630	1,743
給料及び賞与	251,889	270,345
賞与引当金繰入額	47,195	62,727
退職給付費用	15,053	14,305
役員退職慰労引当金繰入額	12,278	11,368
その他	589,076	550,787
販売費及び一般管理費合計	1,160,116	1,182,563
営業利益	287,091	55,266
営業外収益		
受取利息	3,611	3,076
受取配当金	5,273	4,903
為替差益	17,059	-
受取保険金	-	38,284
雑収入	46,763	47,152
営業外収益合計	72,708	93,417
営業外費用		
支払利息	8,123	9,908
為替差損	-	17,163
雑損失	2,243	1,916
営業外費用合計	10,367	28,987
経常利益	349,432	119,696
税金等調整前四半期純利益	349,432	119,696
法人税、住民税及び事業税	118,389	94,172
法人税等調整額	27,581	25,637
法人税等合計	145,970	119,809
四半期純利益又は四半期純損失( )	203,461	113
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	4,282	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	207,743	113

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	203,461	113
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,500	13,853
その他の包括利益合計	12,500	13,853
四半期包括利益	215,962	13,740
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220,244	13,740
非支配株主に係る四半期包括利益	4,282	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	349,432	119,696
減価償却費	184,971	212,482
のれん償却額	35,920	33,585
貸倒引当金の増減額(は減少)	630	1,743
賞与引当金の増減額(は減少)	43,159	8,884
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12,278	117,301
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5,118	4,975
受取利息及び受取配当金	8,885	7,980
支払利息	8,123	9,908
為替差損益(は益)	15,734	17,163
売上債権の増減額(は増加)	788,560	535,853
たな卸資産の増減額(は増加)	162,212	335,162
仕入債務の増減額(は減少)	120,248	203,313
その他	64,587	50,712
小計	366,415	333,834
利息及び配当金の受取額	8,872	7,927
利息の支払額	7,795	10,911
法人税等の支払額	76,481	42,747
営業活動によるキャッシュ・フロー	441,819	379,566
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	368,357	212,498
定期預金の払戻による収入	406,715	196,880
有形固定資産の取得による支出	287,470	295,524
有形固定資産の売却による収入	945	32
無形固定資産の取得による支出	2,712	16,926
投資有価証券の取得による支出	3,697	3,570
投資有価証券の売却及び償還による収入	230	230
その他	28,300	26,187
投資活動によるキャッシュ・フロー	282,647	305,189
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	1,010,000	825,000
長期借入れによる収入	-	120,000
長期借入金の返済による支出	345,584	549,066
ファイナンス・リース債務の返済による支出	4,855	5,336
自己株式の取得による支出	228,000	-
配当金の支払額	42,345	34,893
財務活動によるキャッシュ・フロー	389,214	355,703
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,734	14,880
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	319,517	343,933
現金及び現金同等物の期首残高	1,624,639	1,959,082
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,305,121	1,615,149

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	1,711,229千円	1,963,217千円
預入期間が3か月を超える定期預金	406,108	348,067
現金及び現金同等物	1,305,121	1,615,149

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	42,345	9	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	34,893	9	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,662,304	2,345,056	6,007,361	-	6,007,361
セグメント利益	359,523	151,613	511,137	161,704	349,432

(注) 1 セグメント利益の調整額 161,704千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費179,297千円、営業外収益23,654千円、営業外費用6,061千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,879,157	2,431,874	6,311,031	-	6,311,031
セグメント利益	184,570	131,653	316,224	196,527	119,696

(注) 1 セグメント利益の調整額 196,527千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費184,980千円、営業外収益12,530千円、営業外費用24,077千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( )	44円47銭	0円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	207,743	113
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	207,743	113
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,671	3,877

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月12日

株式会社ヒガシマル  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹之内高司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上田知範 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。